

水道水中における農薬類の目標値の見直しについて（案）

1. 概要

内閣府食品安全委員会における最新の食品健康影響評価及び第 16 回厚生科学審議会生活環境水道部会（平成 27 年 2 月 5 日）における審議結果に基づき、健康局長通知「水質基準に関する省令の制定及び水道法施行規則の一部改正等について」（平成 15 年健発第 1010004 号）の水質管理目標設定項目の農薬類うち、「別添 2 農薬類（水質管理目標設定項目 15）の対象農薬リスト」に掲げる農薬 6 物質について、パブリックコメント手続きを経て、目標値を見直すものである。

（1）水道水中における農薬類の目標値の見直しについて

水質管理目標設定項目の農薬類のうち、「対象農薬リスト掲載農薬類」に掲げる農薬のうち 6 物質（アシュラム、ジクロベニル、ダイアジノン、トリシクラゾール、フェニトロチオン、マラチオン）について、それぞれ目標値を見直し、健康局長通知「水質基準に関する省令の制定及び水道法施行規則の一部改正等について」（平成 15 年健発第 1010004 号）を表 1 のとおり改正することについて、平成 27 年 9 月 11 日～10 月 13 日の間、意見募集を行った。

表 1 農薬類の目標値の見直し案

項目	現行目標値	新目標値
アシュラム	0.2mg/L 以下	0.9mg/L 以下
ジクロベニル	0.01mg/L 以下	0.03mg/L 以下
ダイアジノン	0.005mg/L 以下	0.003mg/L 以下
トリシクラゾール	0.08mg/L 以下	0.1mg/L 以下
フェニトロチオン	0.003mg/L 以下	0.01mg/L 以下
マラチオン	0.05mg/L 以下	0.7mg/L 以下

2. 意見募集の結果等

「水道水中における農薬類の目標値見直し案に関する意見の募集について」について 4 件の意見の提出があった。詳細については、別紙に示すとおり。

3. 今後の予定

年度内に開催予定の厚生科学審議会生活環境水道部会において審議の上、（1）に掲げる通知の改正を行い、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

水道水中における農薬類の目標値見直し案に関する
意見募集の結果とその対応について
(案)

1. 意見募集の実施

内閣府食品安全委員会における最新の食品健康影響評価及び第 16 回厚生科学審議会生活環境水道部会（平成 27 年 2 月 5 日）における審議結果に基づき、健康局長通知「水質基準に関する省令の制定及び水道法施行規則の一部改正等について」（平成 15 年健発第 1010004 号）の水質管理目標設定項目の農薬類うち、「別添 2 農薬類（水質管理目標設定項目 15）の対象農薬リスト」に掲げる農薬 6 物質について、それぞれ目標値を見直すことについて、平成 27 年 9 月 11 日から 10 月 13 日までの間、意見募集を行った。

2. 寄せられた意見数

水道水中における農薬類の目標値見直し案について 4 件の意見の提出があった。

3. 意見に対する考え方

意見に対する考え方を、別表に整理した。

番号	大分類	意見	意見に対する考え方																		
1	目標値	【意見1】 私たちは、いままでの、水道水中の農薬含有規制に関するパブコメ意見で、現行の「水質管理目標設定項目」が、個々の農薬のAD Iにもとづく、いわば、AD I至上主義に依拠する総農薬方式が採用されていることに反対の意見を述べてきた。 私たちは、EU＝ヨーロッパ連合で行われている単一農薬濃度で0.0001mg/L＝0.1μg/L、総農薬濃度で0.0005mg/L＝0.5μg/Lのような管理方式をとるべきであると主張してきたが、受け容れられていない。再考願いたい。 〔理由〕1、個々の農薬の動物試験などから、神経毒性、免疫毒性、生殖毒性など、多様な毒性が、人にも出現することが予測される。水道水から検出される農薬は複数あり、複合毒性が不明である現状を思えば、個別農薬の基準だけでは対処できない。 2、登録農薬の中には、食品安全委員会の毒性評価で、非遺伝毒性メカニズムによる発がん性物質とされているものが多数あり、閾値があるとの認識の下、AD Iが設定されている。 しかし、設定されたAD I以下での、がん患者への影響、他の発がんイニシエーターや放射性物質との相互作用による影響が不明である。そのため、できる限り、農薬の摂取を減らすことが、人の健康を守るには必須である。 下表には、対象農薬のうち、発がん性が報告されている28成分を挙げた。 表　発がん性のある対象農薬リスト #:IARC が本年、発がん性ランクを2A 又は2B とした農薬 *:今回、目標値の変更が提案されている <table><tr><th>対象農薬名</th><th>目標値(mg/L)</th></tr><tr><td>D―D</td><td>0.002</td></tr><tr><td>2，4―D#</td><td>0.03</td></tr><tr><td>MCPA</td><td>0.005</td></tr><tr><td>アシュラム</td><td>0.2→0.9*</td></tr><tr><td>アセフェート</td><td>0.006</td></tr><tr><td>アラクロール</td><td>0.03</td></tr><tr><td>エトフェンプロックス</td><td>0.08</td></tr><tr><td>オキサジクロメホン</td><td>0.02</td></tr></table>	対象農薬名	目標値(mg/L)	D―D	0.002	2，4―D#	0.03	MCPA	0.005	アシュラム	0.2→0.9*	アセフェート	0.006	アラクロール	0.03	エトフェンプロックス	0.08	オキサジクロメホン	0.02	現行の評価方法は、内閣府食品安全委員会における最新の食品健康影響評価等に基づき、毒性の程度も勘案した評価方法であり、水道水の安全管理方法として適切であると考えています。
対象農薬名	目標値(mg/L)																				
D―D	0.002																				
2，4―D#	0.03																				
MCPA	0.005																				
アシュラム	0.2→0.9*																				
アセフェート	0.006																				
アラクロール	0.03																				
エトフェンプロックス	0.08																				
オキサジクロメホン	0.02																				

		オリサストロビン	0.1	
		キノクラミン	0.005	
		グリホサート#	2	
		クロメプロップ	0.02	
		ジクロベニル	0.01→0.03*	
		ジチアノン	0.03	
		ジメタメトリン	0.02	
		ダイアジノン#	0.005→0.003*	
		トリフルラリン	0.06	
		ピリブチカルブ	0.02	
		フェリムゾン	0.05	
		フェントラザミド	0.01	
		ブタクロール	0.03	
		フルアジナム	0.03	
		プロピコナゾール	0.05	
		プロピザミド	0.05	
		ペンディメタリン	0.3	
		マラチオン#	0.05→0.7*	
		メトミノストロビン	0.04	
		モリネート	0.005	
		3、神経系に影響をあたえる有機リン系、カーバメート系、ピレスロイド系、ネオニコチノイド系農薬などが、登録されており、これらの複数種の摂取で、人の健康にどのような影響を及ぼすか不明である 4、総農薬方式では、各農薬の（検出値） / （目標値）の総和 < 1 とされているが、当初の検討案では、総和値は、実測による数値が0.2、0.3 となることから、0.5 とされていた。最終的には、総和値が<1 とされたが、2倍緩くなった数値には反対である。		

2	【意見2】 今回提案の下記6農薬の目標値は、もっと低値に見直すべきである。 (2-1) アシュラムの目標値を 0.2mg/L から 0.9mg/L に緩和することに反対である。 [理由] 提案は、食品安全委員会が設定した ADI 0.36 mg/kg 体重/日を用い、下記式で算出されたものと推定される。 $0.36 \times 53.3 \text{ kg 体重} \times 0.1 \div 2 \text{ L} = 0.959$ アシュラムの慢性毒性/発がん性試験で、ラット雄に副腎褐色細胞腫が認められ、マウスで精巣ライディッヒ細胞腫の増加が認められたが、非遺伝毒性メカニズムとされ、さらに、ラットの2世代繁殖試験において新生児数減少が認められているものの、現行目標値は、ADI を 0.072mg/kg 体重/日として、算出されており、両者の差異について、十分な説明がない。 (2-2) ジクロベニルの目標値を 0.01mg/L から 0.03mg/L に緩和することに反対である。 [理由] 提案は、食品安全委員会が設定した ADI 0.01 mg/kg 体重/日を用い、下記式で算出されたものと推定される。 $0.01 \times 53.3 \text{ kg 体重} \times 0.1 \div 2 \text{ L} = 0.0265$ ジクロベニルのラットの2年間慢性毒性/発がん性併合試験で、肝細胞腫瘍の有意な増加が認められたが、非遺伝毒性メカニズムとされ、母動物に毒性の認められる用量で、ラット胎仔に過剰肋骨が、ウサギでは外表異常又は内臓異常が認められているものの、 現行目標値は、ADI を 0.004mg/kg 体重/日として、算出されており、両者の差異について、十分な説明がない。 (2-3) ダイアジノンの目標値が 0.005mg/L から 0.003mg/L に強化されたが、まだ、高すぎる。 [理由] 1、提案は、食品安全委員会が設定した ADI 0.001mg/kg 体重/日を用い、下記式で算出されたものと推定される。 $0.001 \times 53.3 \text{ 体重} \times 0.1 \div 2 \text{ L} = 0.00265$ EU やアメリカの ADI 0.0002mg/kg 体重/日を採用すると、目標値は、0.00053mg/L となる。 2、IARC (国際がん研究機関) の 2015 年 3 月 20 日の発表では、ダイアジノンの発がん性分類は、Group 2A (probably carcinogenic to humans) と評価されている。	今回の目標値の見直しは、内閣府食品安全委員会における最新の食品健康影響評価に基づき、水道からの摂取量を考慮の上、行うものであり、水道水の安全管理の目標値として妥当な値であると考えます。 今後も同委員会の評価等の最新の科学的知見を踏まえ、逐次、目標値の見直しを行うこととしています。
---	---	--

	(2-4) トリシクラゾールの目標値を0.08mg/Lから0.1mg/Lに緩和することに反対である。 [理由] 提案は、食品安全委員会が設定した ADI0.05mg/kg 体重/日を用い、下記式で算出されたものと推定される。 $0.05 \times 53.3 \text{ kg 体重} \times 0.1 \div 2 \text{ L} = 0.133$ E U の A D I 0.0042mg/kg 体重/日を採用すると、目標値は0.011mg/L となる。 (2-5) フェニトロチオンの目標値を0.003mg/Lから0.01mg/Lに緩和することに反対である。 [理由] 1、提案は、食品安全委員会が設定した ADI0.0049mg/kg 体重/日を用い、下記式で算出されたものと推定される。 $0.0049 \times 53.3 \text{ kg 体重} \times 0.1 \div 2 \text{ L} = 0.013$ オーストラリアの ADI は0.002mg/kg 体重/日を採用すると、0.0053mg/L となる。 2、私たちは、フェニトロチオンの ADI を0.0049mg/kg 体重/日に設定することに反対し、2013 年に食品安全委員会が実施した「フェニトロチオンの食品健康影響評価意見募集で、10 件の意見を述べ、もっと低くするよう求めたが受け容れられなかった。 反農薬東京グループの意見の詳細は以下を参照されたい。 http://www5e.biglobe.ne.jp/~ladymine/kiji/mep131118.txt 3、2010 年 8 月に実施された環境省の「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針」の改正案に対する意見募集」で、『フェニトロチオンについて、1992 年の指針0.03mg/L を0.1mg/L に緩和がすることが提案されたが(排水の指針値は水道目標の10 倍にあたる)、私たちは、反対意見を述べ、その結果、指針値はもとのままの0.03mg/L となった。私たちの次ぎの主張が受け容れられたからである。 『そもそも、92 年の改訂時に、フェニトロチオンが多く of 作物に使われているため、その残留基準と食品別摂取量を基にした、食品由来の理論最大摂取量が ADI の80%を大きく超えてしまい、水からの摂取を ADI の10%以下にすることが困難になったために、0.03mg/L が設定されたのであり、原則を破って、0.1mg/L に緩和すべきでない。』 4、残留農薬のポジティブリスト制度で、フェニトロチオンの残留基準は、169 食品について設定されており、フェニトロチオンの TMDI と対 ADI 比は下表のようになっている。 食品からの理論最大摂取量の対 ADI 比は、すべての区分で100%を越え、小児では、242%となり、水道目標値が0.01mg/L では、対 ADI 比の10%以下にすると	食品安全委員会の評価書の記載によれば、食品中より摂取されるフェニトロチオンの推定摂取量は ADI の80%を超えない(国民平均において対 ADI 比 26.8%、一番評価が厳しくなる小児においても対 ADI 比 53.3%) ため、水道の寄与率を10%として算出した新目標値は水道水の安全管理の値として妥当であると考えます。
--	--	---

いう目安を大幅に超えてしまう。目標値は、0.003mg/L 以下にしておくべきである。

表 スミチオン（フェニトロチオン）の理論最大摂取量と対ADI比

	国民平均	高齢者	妊婦	小児
理論摂取量 mg/日	0.335	0.296	0.281	0.1913
対ADI比 %	125.7	109.2	101.1	242.2

(2-6) マラチオンの目標値を 0.05mg/L から 0.7mg/L に緩和することに反対である。

[理由] 1、提案は、ADI を 0.29 mg/kg 体重/日とし、下記式で算出されたものと推定される。

$$0.29 \times 53.3 \text{ kg 体重} \times 0.1 \div 2 \text{ L} = 0.772$$

私たちは、2014 年 2 月の食品安全委員会の「マラチオンに係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）についての意見・情報の募集について」で、同委員会の ADI 評価は、

EU の評価による ADI 0.03mg/kg 体重/日の約 10 倍高く、もっと低くすべきと、下記の主張をした。

動物実験による無毒性量が 29mg/kg 体重/日より低い、下記のような記載がみられる。

・ラット 慢性毒性及び慢性毒性/発がん性併合試験

雌：過剰量で肝腫瘍発現増加 無毒性量 3 mg/kg 体重/日

・ラット 2 年間慢性毒性試験(1) 赤血球 AChE 活性阻害 (20%以上)

無毒性量 5 mg/kg 体重/日

・ラット 13 週間亜急性神経毒性試験 赤血球 ChE 活性阻害 (20%以上)

無毒性量 4mg/kg 体重/日

ちなみに、EU の ADI を採用すれば、 $0.03 \times 53.3 \text{ kg 体重} \times 0.1 \div 2 \text{ L} = 0.079$ となる。

2、食品安全委員会の評価では、マラチオンのマウスによる 18 か月間発がん性試験で、肝細胞腺腫の発生頻度の増加したが、非遺伝毒性メカニズムとされた。また、代謝物のひとつマラオキシソンの急性毒性はマラチオンよりも強く、ラットによる 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験で、75%以上の動物に精巣間質の腫瘍が認められたが、検体投与の影響ではないとされた。

その後、IARC (国際がん研究機関) の 2015 年 3 月 20 日の発表では、マラチオンの発がん性分類は、グリホサート、ダイアジノンとともに、Group 2A (probably carcinogenic to humans) と評価されている。

<http://www.iarc.fr/en/media-centre/iarcnews/pdf/MonographVolume112.pdf>

3	【意見3】 IARC(国際がん研究機関)が、発がん性を2A又2Bに分類した下記農薬の目標値を再評価すべきである。 (3-1)グリホサート：現行目標値2mg/L [理由]2015年3月20日の発表で、グリホサートは、マラチオンやダイアジノンとともに、Group 2A (probably carcinogenic to humans) と評価された。 (3-2) 2, 4-D：現行目標値0.03mg/L [理由]2015年6月23日の発表で、2, 4-Dは、Group 2B(possibly carcinogenic to humans) と評価された。	今回の意見募集の対象外ですが、今後も内閣府食品安全委員会の食品健康影響評価等の最新の科学的知見を踏まえ、逐次、目標値の見直しを行うこととしています。
---	--	---

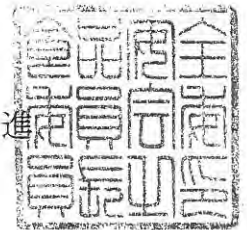
4	【意見4】 まず、「関連資料、その他」に報告へのリンクを記述すべきであるという指摘をしておく。 内容についてであるが、当方はこの水道水中の農薬の許容量の増大に対して否定的な評価をする。 水道水中の農薬は極力低くしておくべきであり、これを単純に増大させる事は実に良くない事であると考え。 (このトレードオフとして塩素等の減少がなされるのであれば考慮するに値すると思えるが、ほぼ全ての項で単純に大幅増大するというのは許容しがたい事である。)	関連する農薬評価書等へのリンクについては、今後対応致します。 今回の目標値値の見直しは、内閣府食品安全委員会における最新の食品健康影響評価に基づき、水道からの摂取量を考慮の上、行うものであり、水道水の安全管理の目標値として妥当であると考えます。
---	--	--



府 食 第 425 号
平成 26 年 6 月 3 日

厚生労働大臣
田村 憲久 殿

食品安全委員会
委員長 熊谷 進



食品健康影響評価の結果の通知について

平成 22 年 9 月 24 日付け厚生労働省発食安 0924 第 5 号及び平成 24 年 2 月 22 日付け厚生労働省発食安 0222 第 1 号をもって厚生労働大臣から食品安全委員会に意見を求められたフェニトロチオンに係る食品健康影響評価の結果は下記のとおりですので、食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 23 条第 2 項の規定に基づき通知します。

なお、食品健康影響評価の詳細は別添 1 のとおりです。

また、本件に関して行った国民からの意見・情報の募集において、貴省に関連する意見・情報が別添 2 のとおり寄せられましたので、お伝えします。

記

フェニトロチオンの一日摂取許容量を 0.0049 mg/kg 体重/日と設定する。

農薬・動物用医薬品評価書

フェニトロチオン

2014年6月

食品安全委員会

目 次

	頁
○ 審議の経緯.....	4
○ 食品安全委員会委員名簿.....	5
○ 食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿.....	5
○ 食品安全委員会動物用医薬品専門調査会専門委員名簿.....	9
○ 要 約.....	10
 I. 評価対象農薬・動物用医薬品の概要.....	 11
1. 用途.....	11
2. 有効成分の一般名.....	11
3. 化学名.....	11
4. 分子式.....	11
5. 分子量.....	11
6. 構造式.....	11
7. 開発の経緯.....	11
 II. 安全性に係る試験の概要.....	 12
1. 動物体内運命試験.....	12
(1) ラット	12
(2) その他の動物	16
2. 植物体内運命試験.....	20
(1) 水稻	20
(2) トマト	21
(3) ぶどう	22
3. 土壌中運命試験.....	23
(1) 土壌中運命試験	23
(2) 土壌表面における光分解	25
(3) 土壌吸脱着試験	26
4. 水中運命試験.....	26
(1) 加水分解試験①	26
(2) 加水分解試験②	26
(3) 水中光分解試験①	27
(4) 水中光分解試験②	28
5. 土壌残留試験.....	29
6. 作物等残留試験.....	30
(1) 作物残留試験	30
(2) 乳汁移行試験	30

(3) 畜産物残留試験	30
(4) 魚介類における最大推定残留量	34
(5) 推定摂取量	35
7. 一般薬理試験	35
8. 急性毒性試験	39
(1) 急性毒性試験	39
(2) 急性神経毒性試験（ラット）	41
(3) 急性遅発性神経毒性試験（鶏）①	42
(4) 急性遅発性神経毒性試験（鶏）②	42
9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚・吸入に対する感作性試験	43
(1) 眼・皮膚に対する刺激性試験（ウサギ）及び皮膚感作性試験（モルモット） ..	43
(2) 吸入による感作性試験（モルモット）	43
10. 亜急性毒性試験	43
(1) 6 か月間亜急性毒性試験（ラット）	43
(2) 30 日間亜急性毒性試験（ラット）＜参考資料＞	44
(3) 90 日間亜急性毒性試験（ラット）＜参考資料＞	44
(4) 6 か月間亜急性毒性試験（ウサギ）	45
(5) 22 又は 23 日間亜急性経皮毒性試験（ウサギ）	45
(6) 28 日間亜急性吸入毒性試験（ラット）	45
(7) 28 日間亜急性吸入毒性試験（マウス）	46
(8) 90 日間亜急性神経毒性試験（ラット）	46
(9) 28 日間亜急性遅発性神経毒性試験（鶏）	47
(10) 6 か月間亜急性毒性試験（代謝物 B、ラット）	47
(11) 6 か月間亜急性毒性試験（代謝物 G、ラット）	48
11. 慢性毒性試験及び発がん性試験	48
(1) 92 週間慢性毒性試験（ラット）＜参考資料＞	48
(2) 2 年間慢性毒性試験（イヌ）	48
(3) 1 年間慢性毒性試験（イヌ）①	49
(4) 1 年間慢性毒性試験（イヌ）②＜参考資料＞	50
(5) 2 年間慢性毒性試験（サル）	50
(6) 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）	50
(7) 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（マウス）	51
(8) 18 か月間発がん性試験（マウス）	52
12. 生殖発生毒性試験	53
(1) 2 世代繁殖試験（ラット）	53
(2) 1 世代繁殖試験（ラット）	54
(3) 3 世代繁殖試験（ラット）＜参考資料＞	54
(4) 発生毒性試験（ラット）①	55

(5) 発生毒性試験（ラット）②	56
(6) 発生毒性試験（マウス）＜参考資料＞	56
(7) 発生毒性試験（ウサギ）①	56
(8) 発生毒性試験（ウサギ）②＜参考資料＞	56
1 3. 遺伝毒性試験.....	57
1 4. その他の試験.....	60
(1) 急性眼毒性試験（ラット）	60
(2) 90 日間亜急性眼毒性試験（ラット）	60
(3) 亜急性暴露試験（ヒト）	61
(4) 酵素に対する影響①	61
(5) 酵素に対する影響②	61
III. 食品健康影響評価.....	62
▪ 別紙 1：代謝物/分解物略称	69
▪ 別紙 2：検査値等略称	71
▪ 別紙 3：作物残留試験成績	72
▪ 別紙 4：推定摂取量	96
▪ 参照.....	98

要 約

殺虫剤「フェニトロチオン」(CAS No. 122-14-5)について、各種試験成績等を用いて食品健康影響評価を実施した。

評価に用いた試験成績は、動物体内運命(ラット、マウス、ウサギ、モルモット、イヌ、山羊、ヒト、鶏及びうずら)、植物体内運命(水稻、ぶどう等)、作物等残留、亜急性毒性(ラット及びウサギ)、亜急性神経毒性(ラット及び鶏)、慢性毒性(イヌ及びサル)、慢性毒性/発がん性併合(ラット及びマウス)、発がん性(マウス)、繁殖(ラット)、発生毒性(ラット及びウサギ)、遺伝毒性等の試験成績である。

各種毒性試験結果からフェニトロチオン投与による影響として、主に **ChE** 活性阻害が認められた。発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性、遅発性神経毒性及び遺伝毒性は認められなかった。

各種試験結果から、農産物、畜産物及び魚介類中の暴露評価対象物質をフェニトロチオン(親化合物のみ)と設定した。

各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験の 0.49 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.0049 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量(ADI)と設定した。

ル)、魚介類における最大推定残留値は 0.240 mg/kg であった。(参照 4)

(5) 推定摂取量

別紙 3 の作物残留試験の分析値及び魚介類における最大推定残留値を用いてフェニトロチオンを暴露評価対象化合物とした際に食品中から摂取される推定摂取量が表 22 に示されている。

なお、本推定摂取量の算定は、登録に基づく使用方法から、フェニトロチオンが最大の残留を示す使用条件で、全ての適用作物に使用され、かつ、魚介類への残留が上記の推定残留値を示し、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下に行った。

表 22 食品中より摂取されるフェニトロチオンの推定摂取量

	国民平均 (体重：53.3 kg)	小児（1～6 歳） (体重：15.4 kg)	妊婦 (体重：55.6 kg)	高齢者(65 歳以上) (体重：54.2 kg)
推定摂取量 (μg/人/日)	70.1	40.2	62.4	66.2

7. 一般薬理試験

フェニトロチオンのラット、マウス、ウサギ、ネコ及びモルモットを用いた一般薬理試験が実施された。

結果は表 23 に示されている。(参照 5、23、88)

表 23 一般薬理試験概要（原体）

試験の種類	動物種 ^b	動物数 /群	投与量 (mg/kg 体重) (投与経路)	最大 無作用量 (mg/kg 体 重)	最小作用 量 (mg/kg 体 重)	結果の概要
一般症状	dd マウス	雌雄 8	800、936、 1,095、1,281、 1,499 (経口) ^a	—	800	自発運動の 減少、呼吸促 迫、呼吸困 難、流涎、振 戦、流涙、 936 mg/kg 体 重以上で死 亡例
			2,000、2,440、 2,977、3,632、 4,431、5,405 (皮下) ^a	—	2,000	自発運動の 減少、流涎、 挙尾、振戦、 跳躍、 2,440 mg/kg 体重以上で 死亡例

<別紙 3：作物残留試験成績>

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
水稲 (露地) (玄米) 昭和 48 年度	750 ^{EC}	1	1	31	<0.002	<0.002	0.005	0.004
		1		28	0.003	0.003	0.002	0.002
		1		34	<0.002	<0.002	0.002	0.002
	750 ^{EC} 空中散布	1		31			0.007	0.007
				42	<0.002	<0.002	0.005	0.004
		1		28	<0.002	<0.002	0.002	0.002
		1		34	<0.002	<0.002	0.002	0.002
水稲 (稲わら) 昭和 48 年度	750 ^{EC}	1	1	31	0.007	0.007	0.017	0.016
		1		28	0.019	0.018	0.043	0.040
		1		34	0.033	0.032	0.068	0.064
	750 ^{EC} 空中散布	1		31			0.017	0.016
				42	0.073	0.068	0.060	0.058
		1		28	0.005	0.004	0.018	0.017
		1		28	0.049	0.046	0.087	0.086
水稲 (露地) (玄米) 昭和 53 年度	750 ^{EC}	1	1	53	<0.01	<0.01	<0.002	<0.002
		1		37	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
	750 ^{EC} 空中散布	1		47	<0.01	<0.01	<0.002	<0.002
		1		37	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
	500 ^{EC}	1		109	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
	500 ^{EC} 空中散布	1		109	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
水稲 (稲わら) 昭和 53 年度	750 ^{EC}	1	1	53	0.01	0.01	0.004	0.004
		1		37	0.03	0.02	0.021	0.020
	750 ^{EC} 空中散布	1		47	<0.01	<0.01	0.007	0.007
		1		37	0.07	0.07	0.072	0.068
	500 ^{EC}	1		109	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
	500 ^{EC} 空中散布	1		109	0.01	0.01	0.005	0.005
水稻 (露地) (玄米) 平成 4 年度	500 ^{MC} 空中散布	1	1	26	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
		1		46	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
	500 ^{MC}	1	1	41	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
		1		46	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
水稻 (露地) (稲わら) 平成 4 年度	500 ^{MC} 空中散布	1	1	26	<0.02	<0.02	0.18	0.18
		1		46	<0.02	<0.02	0.01	0.01
	500 ^{MC}	1	1	41	0.17	0.16	0.02	0.02
		1		46	0.04	0.04	0.07	0.06
水稻 (露地) (青刈り) 平成 4 年度	500 ^{MC} 空中散布	1	1	16			0.08	0.08
		1		22			0.03	0.02
	500 ^{MC}	1	1	16			0.02	0.02
		1		22			0.04	0.04
水稻 (露地) (玄米) 平成 5 年度	0.5% ^{EC} 種子浸漬	1	1	175			<0.01	<0.01
	0.05% ^{EC} 種子浸漬	1		190			<0.01	<0.01
水稻 (露地) (玄米) 平成 8 年度	0.05% ^{EC} 種子浸漬	1	1	177	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		1		146	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		1		179	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		1		146	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
水稻 (露地) (玄米) 平成 9 年度	0.25 ml/箱	1	1	136	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
		1		124	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
水稲 (露地) (稲わら) 平成 9 年度	0.25 ml/箱	1		136	<0.02	<0.02	<0.05	<0.05
		1		124	<0.02	<0.02	<0.05	<0.05
水稲 (露地) (玄米) 平成 10 年度	500 ^{WP} 空中散布	1	1	21			<0.005	<0.005
		1					0.046	0.046
	500 ^{EC}	1					<0.005	<0.005
	750 ^{EC}	1					0.049	0.048
小麦 (露地) (種子) 昭和 54 年度	500 ^{EC} 空中散布	1	1	6	0.04	0.04	0.052	0.048
				10	0.06	0.06	0.060	0.059
				15	0.10	0.10	0.059	0.057
				20	0.04	0.04	0.043	0.043
				35	0.05	0.04	0.016	0.016
		1		7	0.04	0.04	0.029	0.029
				13	0.03	0.03	0.029	0.027
				18	0.02	0.02	0.011	0.011
				21	<0.01	<0.01	0.010	0.010
				38	0.02	0.02	0.010	0.010
	500 ^{EC}	1		6	0.13	0.12	0.056	0.050
				10	0.03	0.03	0.028	0.028
				15	<0.01	<0.01	0.003	0.003
				20	<0.01	<0.01	0.003	0.003
				35	<0.01	<0.01	0.002	0.002
	750 ^{EC}	1		7	0.02	0.02	0.016	0.016
				13	0.03	0.03	0.014	0.014
				18	0.04	0.04	0.006	0.006
				38	<0.01	<0.01	0.006	0.006
大麦 (露地) (種子) 平成 8 年度	500 ^{EC} 空中散布	1	1	7			0.05	0.05
		1		7			0.43	0.42

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
とうもろこし (露地) (生食用子実) 昭和 57 年度	1,000～1,500 ^{EC}	2	4	7 14	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
とうもろこし (露地) (乾燥子実) 昭和 57 年度	1,000 ^{EC}	1	4	7	0.005	0.005	<0.005	<0.005
	1,500 ^{EC}	1		7	0.045	0.044	<0.005	<0.005
とうもろこし (露地) (青刈り) 平成 3 年度	550～1,250 ^{EC}	1	4	7 14			0.43 0.15	0.42 0.15
	1,250 ^{EC}	1		7 14				
飼料用 とうもろこし (露地) (茎葉) 平 16 年度	500 ^{EC}	1	2	28	0.33	0.32	0.15	0.15
				42	0.02	0.02	<0.02	<0.02
				56	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				84	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		1		28	0.17	0.17	0.15	0.14
				42	<0.02	<0.02	0.06	0.06
				56	0.02	0.02	0.03	0.03
				84	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
だいず (露地) (乾燥子実) 昭和 46 年度	714 ^{EC}	1	2	56			0.002	0.002
			3	43			0.002	0.002
		1	2	55			0.005	0.004
			3	55			0.001	0.001
だいず (露地) (乾燥子実) 昭和 55 年度	750 ^{EC} 空中散布	2	3	45	<0.005	<0.005		
	900 ^{EC}	2			<0.005	<0.005		
だいず (露地) (乾燥子実) 平成 2 年度	1,250 ^{EC}	2	4	21 31	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
だいず (露地) (乾燥子実) 平成 9 年度	500 ^{EC} 空中散布	2	4	21			<0.01	<0.01
いんげんまめ (露地) (乾燥子実) 平成 2 年度	1,250 ^{EC}	1	4	21	0.01	0.01	0.01	0.01
				30	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		1		21	0.02	0.02	0.02	0.02
あずき (露地) (乾燥子実) 昭和 59 年度	1,250 ^{EC}	1	4	21	0.069	0.068	0.046	0.044
		1		21	0.061	0.061	0.039	0.038
あずき (露地) (乾燥子実) 平成 15 年度	500 ^{EC}	2	4	21 28	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
えんどうまめ (施設) (乾燥子実) 平成 2,3 年度	1,000~1,250 ^{EC}	2	4	30	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
そらまめ (露地) (豆) 平成 19 年度	1,000 ^{EC}	1	3	3			0.03	0.03
				7			0.03	0.03
				14			0.02	0.02
		1		3			0.01	0.01
				7			<0.01	<0.01
				14			<0.01	<0.01
らっかせい (露地) (乾燥子実) 平成 2 年度	1,000~1,250 ^{EC}	2	4	21 30	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ばれいしょ (露地) (可食部) 昭和 48 年度	750 ^{EC}	1	3	3	<0.002	<0.002	0.002	0.002
				7	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
				14	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	500 ^{EC}	1	6	3	<0.002	<0.002	0.004	0.004
				7	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
				14	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成 15 年度	500 ^{EC}	2	6	3	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
				7	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
				14	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
かんしょ (露地) (塊茎) 昭和 61 年度	600 ^{EC}	2	5	7	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
				14	<0.01	<0.01	<0.005	<0.005
かんしょ (露地) (塊茎) 平成 3 年度	1,000 ^{EC}	2	5	7	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				14	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
				21	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
こんにゃく (露地) (球茎) 昭和 58 年度	750~1,000 ^{EC}	1	2	34	<0.02	<0.02		
	1,100 ^{EC}	1		65	<0.02	<0.02		
こんにゃく (露地) (球茎) 平成 3 年度	1,000 ^{EC}	2	3	14 21	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
さとうきび (露地) (茎) 昭和 47 年度	1,200 ^{MG}	1	2	101 ^a	0.001	0.001	0.001	0.001
		1		151	0.011	0.011	0.011	0.011
さとうきび (露地) (茎及び葉) 昭和 49 年度	1,000 ^{EC}	1	2	7 ^a 15 ^a			0.025 0.003	0.022 0.002
		1		7 ^a 14 ^a			0.017 0.006	0.013 0.005
さとうきび (露地) (茎) 昭和 49 年度	1,000 ^{EC}	1	4 ^a	36 ^a			0.041	0.036
		1		98 ^a			0.057	0.052
さとうきび (露地) (茎) 昭和 59 年度	1,500 ^{EC}	1	4 ^a	14 ^a	0.029	0.028	0.005	0.004
		1			0.012	0.012	0.012	0.012
さとうきび (露地) (茎及び葉) 平成 5 年度	1,200 ^{EC} 空中散布	1	1	30 ^a 60 ^a			0.008 <0.005	0.008 <0.005
				30 ^a 60 ^a			0.010 <0.005	0.009 <0.005
		1		30 ^a 60 ^a			<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
	750 ^{EC}	2		31 ^a 61 ^a			<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
さとうきび (露地) (茎) 平成 6 年度	1,000 ^{MC}	1	4 ^a	90 ^a 120	0.005 0.006	0.005 0.006	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
		1		88 ^a 119	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005
ごぼう (露地) (根部) 昭和 59 年度	1,000 ^{EC}	1	2	14	0.007	0.006	0.003	0.002
		1			0.007	0.007	0.003	0.003

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃 場数	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
たまねぎ (露地) (鱗茎) 平成 2 年度	857～1,071 ^{EC}	2	2	21 30	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
根深ねぎ (露地) (茎葉) 平成 2 年度	1,071 ^{EC}	2	2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ねぎ (施設) (無袋) (茎葉) 2007 年	1,428 ^{EC}	1	2	21 30	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
らっきょう (露地) (鱗茎) 平成 17 年度	500～1,000 ^{EC}	2	2	14 21 30	<0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02	<0.02 <0.02 <0.02
トマト (施設) (果実) 平成 4 年度	625～750 ^{EC}	1	2	14	0.03	0.03	0.03	0.02
		1			0.01	0.01	<0.01	<0.01
なす (露地) (可食部) 昭和 47 年度	1,000 ^{EC}	1	3	3 7 14	0.002 0.002 0.002	0.002 0.002 0.002		
	750～1,500 ^{EC}	1		3 7 14	0.002 <0.001 <0.001	0.002 <0.001 <0.001		
なす (施設) (果実) 昭和 60 年度	1,000 ^{EC}	1	5	3	0.042	0.040	0.062	0.062
		1			0.004	0.004	0.007	0.007
なす (施設) (果実) 平成元年度	1,000 ^{EC}	1	5	3			0.02	0.02
		1					0.01	0.01

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
きゅうり (施設) (果実) 昭和 60 年度	1,000 ^{EC}	1	5	1 3	0.032 <0.002	0.030 <0.002	0.023 <0.002	0.022 <0.002
		1		1 3	0.058 0.010	0.058 0.010	0.059 0.005	0.059 0.005
きゅうり (施設) (果実) 平成 2 年度	1,785 ^{EC}	1	3	1 3	0.02 <0.01	0.02 <0.01	0.03 0.02	0.03 0.02
			5	1 3	0.02 <0.01	0.02 <0.01	0.03 0.02	0.02 0.02
		1	3	1 3	0.04 <0.01	0.04 <0.01	0.04 <0.01	0.04 <0.01
			5	1 3	0.02 <0.01	0.02 <0.01	0.03 0.02	0.02 0.02
かぼちゃ (施設) (果実) 平成 3 年度	1,428 ^{EC}	1	3	14	0.033	0.031	0.032	0.032
		1			0.009	0.009	0.011	0.010
しろり (露地) (果実) 平成 3 年度	87~1,000 ^{EC}	1	5	3 7 14			<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01
しろり (露地) (果実) 平成 4 年度	212~1,000 ^{EC}	1	5	1 3 7	0.02 <0.01 <0.01	0.02 <0.01 <0.01	0.02 <0.01 <0.01	0.02 <0.01 <0.01
		1		1 3 7	0.01 <0.01 <0.01	0.01 <0.01 <0.01	0.01 <0.01 <0.01	0.01 <0.01 <0.01
すいか (露地) (可食部) 昭和 51 年度	714~2,500 ^{EC}	2	6	3	<0.002	<0.002	<0.001	<0.001
メロン (施設) (果実) 昭和 59 年度	1,000 ^{EC}	2	5	1 3	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ほうれんそう (施設) (茎葉) 平成元年度	750 ^{EC}	1	2	21 30	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
	1,000 ^{EC}	1		21 30	0.006 <0.005	0.006 <0.005	0.02 <0.01	0.02 <0.01
	375~500 ^{EC}	2		21 30	<0.005 <0.005	<0.005 <0.005	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
さやえんどう (施設) (さや) 平成3年度	1,000 ^{EC}	1	4	21 28	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	0.07 0.02	0.07 0.02
	1,250 ^{EC}	1		21 30	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	0.02 0.01	0.02 0.01
さやいんげん (露地) (子実) 平成2年度	1,250 ^{EC}	1	4	21 30	0.01 <0.01	0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
		1		21 30	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
しいたけ (露地 又は施設) (乾燥子実) 昭和57年度	133~158 ^{EC} mL/m ² ほど木	1 露地	2 ^a	605	0.004	0.004	<0.005	<0.005
		1 施設		592	0.004	0.004	<0.005	<0.005
未成熟 そらまめ (露地) (子実) 平成7年度	1,500 ^{EC}	1	3	3 7 13	0.031 0.016 0.005	0.030 0.016 0.004	0.04 0.02 <0.01	0.04 0.02 <0.01
		1		3 7 14	0.007 0.009 0.002	0.006 0.009 0.002	0.01 0.01 <0.01	0.01 0.01 <0.01
えだまめ (露地) (子実: さやを含む) 平成2年度	1,250 ^{EC}	1	4	21 30	0.12 0.10	0.12 0.09	0.07 0.10	0.07 0.10
		1		21 30	0.19 <0.01	0.18 <0.01	0.15 <0.01	0.15 <0.01
たらのき (露地) (可食部) 平成6年度	9,000 ^{EC} 茎葉散布	2	2	227	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
モロヘイヤ (露地) (茎葉) 平成 7 年度	2,000 ^{EC} 茎葉散布	1	2	14	<0.03	<0.03	<0.01	<0.01
		1		21	<0.03	<0.03	<0.01	<0.01
うど (露地 又は施設) (茎) 平成 6 年度	1,000~2,125 ^{EC} 茎葉散布 株養成期：露地 収穫期：施設	1	4	226	<0.002	<0.002	<0.02	<0.02
		1		139	<0.002	<0.002	<0.02	<0.02
オリーブ (露地) (果実) 平成 6 年度	20 mL ^{EC} / 樹 樹幹散布	1	2	60	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			3	21 300	0.01 <0.01	0.01 <0.01	0.01 <0.01	0.01 <0.01
		1	2	60	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21 300	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
オリーブ (露地) (無袋) (葉) 平成 16 年度	4,000 ^{EC} 樹幹散布	1	3	120	<0.02	<0.02		
		1		120	0.04	0.04		
わらび (露地又は 施設) (無袋) (茎葉) 平成 16 年度	1,000 ^{EC} 株養成期：露地 収穫期：施設	1	2	83	<0.005	<0.005		
わらび (露地又は 施設) (無袋) (茎葉) 平成 17 年度	1,000 ^{EC} 株養成期：露地 収穫期：施設	1	2	89	<0.005	<0.005		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
温州みかん (露地) (果肉) 昭和 49 年度	1,333 ^{EC} 空中散布	1	1	202	<0.001	<0.001	<0.003	<0.003
	2,500 ^{EC}	1		202	<0.001	<0.001	<0.003	<0.003
温州みかん (露地) (果皮) 昭和 49 年度	1,333 ^{EC} 空中散布	1	1	202	<0.002	<0.002	0.004	0.004
	2,500 ^{EC}	1		202	<0.002	<0.002	0.004	0.004
温州みかん (露地) (果肉) 昭和 57 年度	9,009 ^{EC}	1	1	14 21 28			<0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005
温州みかん (露地) (果皮) 昭和 57 年度	9,009 ^{EC}	1	1	14 21 28			3.73 2.53 2.46	3.56 2.50 2.44
温州みかん (露地) (果肉) 昭和 63 年度	3,000 ^{EC}	1	3	14 21 30			<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01
			5	45			<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
温州みかん (露地) (果皮) 昭和 63 年度	3,000 ^{EC}	1	3	14 21 30 45			8.82 8.45 7.49 5.97	8.71 8.42 7.42 5.94
			5	14 21 30 45			19.2 17.5 16.1 12.7	18.8 17.3 16.0 12.6
温州みかん (露地) (無袋) (果肉)	2,000 ^{EC}	2	3	14 21 30 45	<0.005 <0.005 <0.005 <0.005	<0.005 <0.005 <0.005 <0.005	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度 平成元年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃 場数	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
			5	14	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				21	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				30	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
				45	<0.005	<0.005	<0.01	<0.01
温州みかん (露地) (無袋) (果皮) 平成元年度	2,000 ^{EC}	1	3	14	7.42	7.24	5.56	5.46
				21	4.94	4.78	6.32	6.03
				30	7.09	7.08	6.12	5.92
				45	5.78	5.68	5.05	4.79
			5	14	6.56	6.48	7.56	7.24
				21	8.03	7.95	9.42	9.30
				30	8.46	8.17	7.78	7.58
				45	6.30	6.30	6.70	6.61
		1	3	14	4.99	4.76	5.02	4.98
				21	4.03	3.92	4.54	4.40
				30	5.14	4.90	4.76	4.71
				45	4.35	4.21	4.82	4.68
			5	14	7.24	7.22	7.20	7.16
				21	6.16	6.08	6.28	6.22
				30	7.43	7.35	7.68	7.68
				45	6.91	6.58	6.27	6.16
温州みかん (露地) (無袋) (果肉) 平成6年度	2,500 ^{EC} 空中散布	2	5	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
温州みかん (露地) (無袋) (果皮) 平成6年度	2,500 ^{EC} 空中散布	1	5	14	1.07	1.04	0.79	0.75
		1			1.85	1.84	1.45	1.44
なつみかん (露地) (無袋) (果実全体) 平成6年度	2,500 ^{EC}	1	3	21	0.57	0.54	0.56	0.56
		1			0.88	0.86	0.67	0.66

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
いよかん (露地) (無袋) (果肉) 平成 6 年度	2,500 ^{EC} 空中散布	2	5	13	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
いよかん (露地) (無袋) (果皮) 平成 6 年度	2,500 ^{EC} 空中散布	1	5	13	1.38	1.36	0.42	0.39
		1			1.03	1.03	0.62	0.59
いよかん (露地) (無袋) (果実全体 : 計算値) 平成 6 年度	2,500 ^{EC} 空中散布	1	5	13	—	0.50	—	0.14
		1			—	0.41	—	0.20
りんご (露地) (果実) 昭和 47 年度	2,500～3,000 ^{EC}	1	3	30	0.046	0.044		
		1		29	0.052	0.052		
りんご (露地) (果実) 昭和 51 年度	1,500 ^{EC} 少量散布	1	3	28 ^a	0.09	0.08	0.139	0.130
		1			0.12	0.12	0.178	0.174
りんご (露地) (無袋) (果肉) 昭和 53 年度	200 ^{EC} 主幹部塗布	1	1	159			<0.002	<0.002
りんご (露地) (無袋) (果皮) 昭和 53 年度	200 ^{EC} 主幹部塗布	1	1	159			<0.002	<0.002

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
りんご (露地) (無袋) (果実) 平成 2 年度	2,000 ^{EC}	1	3	30	0.13	0.13	0.11	0.11
		1	2		0.11	0.10	0.12	0.12
りんご (露地) (無袋) (果実) 平成 4 年度	1,500 ^{EC}	1	3	30			0.11	0.11
りんご (露地) (無袋) (果実) 平成 5 年度	2,000 ^{EC}	1	3	30			0.02	0.02
				45			0.01	0.01
	1,500 ^{EC}	1		30			<0.01	<0.01
				45			<0.01	<0.01
りんご (露地) (無袋) (果実) 平成 6 年度	2,000 ^{EC}	1	3	30			0.10	0.10
		1					0.01	0.01
りんご (露地) (無袋) (果実) 平成 7 年度	1,500~2,000 ^{EC} 茎葉散布	2	3	30			0.01	0.01
		1		30			0.03	0.02
		1		30			0.08	0.08
		1		30			0.04	0.04
日本なし (露地) (無袋) (果実) 昭和 62 年度	2,000 ^{EC}	1	6	21	0.045	0.042	0.048	0.048
				30	0.017	0.016	0.016	0.016
		1		21	0.152	0.148	0.119	0.118
				28	0.104	0.097	0.105	0.103
	2,000 ^{WP}	1		21	0.006	0.006	0.006	0.006
				30	0.005	0.005	<0.005	<0.005
		1		21	0.111	0.108	0.091	0.089
				28	0.121	0.117	0.053	0.051

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
日本なし (露地) (有袋) (果実) 平成 2 年度	2,000 ^{EC}	1	6	14	0.03	0.03	0.04	0.04
		1		14	0.08	0.08	0.10	0.10
日本なし (露地) (果実) 平成 5 年度	2,500 ^{EC}	1	6	21 30			0.12 0.02	0.11 0.02
	2,000 ^{EC}	1		21 30			0.12 0.05	0.12 0.05
日本なし (露地) (無袋) (果実) 平成 6 年度	2,000 ^{EC}	1	6	21			0.06	0.05
		1					0.05	0.05
日本なし (露地) (有袋) (果実) 平成 6 年度	2,000 ^{EC}	1	6	14			<0.01	<0.01
		1					0.03	0.02
		1					0.04	0.04
日本なし (露地) (無袋) (果実) 平成 7 年度	2,000 ^{EC} 茎葉散布	1	6	21			0.08	0.08
		1					0.06	0.06
		1					0.03	0.03
		1					0.09	0.08
日本なし (露地) (有袋) (果実) 平成 7 年度	2,000 ^{EC} 茎葉散布	1	6	14			0.03	0.03
もも (露地) (無袋)	2,000 ^{EC}	1	3	3	0.073	0.070		
				7	0.032	0.030		
				14	0.005	0.005		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度 (果肉) 昭和 47 年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
			6	3	0.080	0.074		
				7	0.067	0.064		
				14	0.009	0.008		
	2,500 ^{EC}	1	3	3	0.073	0.071		
				7	0.057	0.056		
				14	0.011	0.010		
			6	3	0.071	0.070		
				7	0.054	0.053		
				14	0.015	0.014		
もも (露地) (無袋) (果皮) 昭和 47 年度	2,000 ^{EC}	1	3	3	2.24	2.24		
				7	1.10	1.08		
				14	0.416	0.364		
			6	3	2.91	2.74		
				7	1.56	1.54		
				14	0.580	0.540		
	2,500 ^{EC}	1	3	3	5.59	5.52		
				7	6.15	6.02		
				14	2.09	1.98		
			6	3	6.11	5.93		
もも (果肉) 昭和 47 年度	5,000 ^{EC}	1	1	85	0.0027	0.0020	<0.001	<0.001
				50	0.0032	0.0026	0.002	0.002
		1	1	119	<0.0008	<0.0008	<0.001	<0.001
			2	88	<0.0008	<0.0008	<0.001	<0.001
もも (露地) (無袋) (果肉) 昭和 50 年度	0.75% ^{EC} 樹幹塗布	2	1	30	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
				45	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
もも (露地) (無袋) (果皮) 昭和 50 年度	0.75% ^{EC} 樹幹塗布	2	1	30 45	<0.004 <0.004	<0.004 <0.004	<0.002 <0.002	<0.002 <0.002
もも (露地) (無袋) (果肉) 平成 10 年度	2,000 ^{EC}	1	6	3 7 13	0.04 0.04 0.03	0.04 0.04 0.03	0.10 0.03 <0.01	0.10 0.03 <0.01
		1		3 7 14	0.03 0.01 <0.01	0.03 0.01 <0.01	0.01 0.01 <0.01	0.01 0.01 <0.01
		1		3 7 14	0.04 0.04 0.04	0.04 0.04 0.04	0.04 0.02 <0.01	0.04 0.02 <0.01
	1,500 ^{EC}	1		3 7 14	0.04 0.04 0.04	0.04 0.04 0.04	0.04 0.02 <0.01	0.04 0.02 <0.01
		1		3 7 13	26.4 13.8 9.12	25.5 13.6 9.11	23.1 8.33 4.96	22.9 7.96 4.15
		1		3 8 14	4.83 1.95 0.48	4.78 1.89 0.47	2.19 1.51 0.64	2.12 1.45 0.64
もも (露地) (有袋) (果肉) 平成 10 年度	2,000 ^{EC}	1	6	3 7 14	0.07 0.06 0.03	0.07 0.06 0.03		
もも (露地) (有袋) (果皮) 平成 10 年度	2,000 ^{EC}	1	6	3 7 14	16.2 15.9 8.51	15.7 15.5 8.32		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
あんず (露地) (無袋) (果肉) 平成 5 年度	7,500 ^{EC}	1	1	105	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	15 g/樹	1		118	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ネクタリン (露地) (無袋) (果肉) 平成 17 年度	2,400 ^{EC}	2	3	124 131 138			<0.01 <0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01
うめ (露地) (核を除く 果実全体) 昭和 53 年度	0.15% ^{EC} 樹幹散布	1	1	79			<0.004	<0.004
	0.3% ^{EC} 樹幹散布						<0.004	<0.004
	0.5% ^{EC} 樹幹散布						<0.004	<0.004
うめ (露地) (果肉) 昭和 61 年度	12,500 ^{EC} 樹幹散布	1		99	0.024	0.023	0.006	0.006
	5,000 ^{EC} 樹幹散布	1		95	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
うめ (露地) (果肉) 昭和 62 年度	4,000 ^{EC}	1	2	21	0.044	0.044	0.059	0.058
				30	0.014	0.013	0.023	0.020
				45	0.064	0.064	0.008	0.007
		1		21	0.115	0.112	0.080	0.078
				30	0.008	0.008	<0.005	<0.005
				45	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
うめ (露地) (果実) 平成 3 年度	3,000 ^{EC}	1	2	13	0.014	0.014	0.046	0.044
	2,000 ^{EC}	1		21	0.006	0.006	0.007	0.006
				14	0.022	0.021	0.031	0.031
				21	<0.005	<0.005	0.007	0.006
うめ (露地) (果実) 平成 20 年度	6～10 ^{EC} g/樹	2	2	90	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				97	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
おうとう (露地) (果肉) 昭和 61 年度	2,000 ^{EC}	1	1	68	<0.004	<0.004	<0.002	<0.002
	2,800 ^{EC}	1		80	<0.004	<0.004	<0.002	<0.002
おうとう (施設) (果実) 平成 2 年度	1,500 ^{EC}	1	2	21 30	0.02 <0.01	0.02 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
	2,000 ^{EC}	1		21 30	0.02 <0.01	0.02 <0.01	0.01 <0.01	0.01 <0.01
いちご (露地) (果実) 平成 4 年度	750 ^{EC}	1	2	7	0.06	0.06	0.08	0.08
	375 ^{EC}	1			0.03	0.02	0.03	0.03
大粒種ぶどう (露地) (可食部) 昭和 53 年度	20 ^{EC} g/樹 樹幹塗布	2	1	82 又 は 103	<0.004	<0.004	<0.002	<0.002
大粒種ぶどう (施設) (無袋) (果実) 平成元年度	1,500 ^{EC}	1	2	21 30			0.046 0.024	0.043 0.022
		1					0.007 <0.005	0.006 <0.005
大粒種ぶどう (施設) (果実) 平成元年度	1,500 ^{EC}	1	2	21 30	0.07 0.05	0.06 0.04	0.05 0.04	0.05 0.04
		1			0.02 0.06	0.02 0.06	0.02 0.03	0.02 0.03
大粒種ぶどう (施設) (無袋) (果実) 平成 18 年度	3,000~9,000 ^{EC} 2 回まで主枝散 布 3 回目から 2.5~4 g ^{EC} /樹 樹幹散布	2	4	21 30 45	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
小粒種ぶどう (果実) 昭和 47、48 年 度	4,170 ^{EC}	1	1	113			<0.002	<0.002
	6,250 ^{EC}		2				<0.002	<0.002
	5,000 ^{EC}	1	1	149			<0.002	<0.002
			2	137			<0.002	<0.002
小粒種ぶどう (施設) (無袋) (果実) 平成 5 年度	1,500 ^{EC}	2	4	90	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
小粒種ぶどう (施設) (無袋) (果実) 平成 16 年度	2 g ^{EC} /樹 樹幹塗布	2	2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
小粒種ぶどう (施設) (無袋) (果実) 平成 18 年度	9,000~15,000 ^{EC} 2 回まで主枝散 布 3 回目から 0.7~2 g ^{EC} /樹 樹幹散布	2	4	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				30	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				45	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
かき (露地) (可食部) 昭和 47 年度	1,250 ^{EC}	1	3	46	0.003	0.003		
かき (露地) (無袋) (果実) 平成元年度	2,000 ^{WP}	1	3	45	0.010	0.009	0.03	0.03
		1			0.043	0.041	0.03	0.03
かき (露地) (無袋) (果実) 平成 11 年度	1,500 ^{EC}	1	3	41	0.05	0.05		
		1		42	0.03	0.03		
		1		42	0.06	0.06		
		1		42	0.01	0.01		
		1		43	0.04	0.04		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
	1,570 ^{EC}	1		42	<0.01	<0.01		
かき (露地) (無袋) (果実) 平成 19 年度	2,500 ^{EC}	1	3	42 56	0.03 0.01	0.02 0.01	0.01 <0.01	0.01 <0.01
		1			0.10 <0.01	0.10 <0.01	0.10 <0.01	0.10 <0.01
パイナップル (露地) (可食部) 昭和 48 年度	1,000 ^{EC}	1	2	52			0.003	0.003
			4	31			0.005	0.005
		1	2	80			<0.002	<0.002
			4	62			<0.002	<0.002
いちじく (果実) 昭和 53 年度	8~10 g ^{EC} /樹 樹幹塗布	1	1	30			<0.004	<0.004
	4.5 g ^{EC} /樹	1	1	7 14 21	- 0.004 <0.002	0.015 0.004 <0.002		
				7 14 21	0.007 0.003 <0.002	0.006 0.003 <0.002		
				7 14 21	0.019 0.005 <0.002	0.018 0.004 <0.002		
			1	7 14 21	0.105 0.014 0.011	0.100 0.014 0.010		
				7 14 21	0.046 0.037 0.012	0.022 0.034 0.011		
				7 14	0.002 0.041	0.002 0.040		
		1	1	7 14 21	0.105 0.014 0.011	0.100 0.014 0.010		
				7 14 21	0.046 0.037 0.012	0.022 0.034 0.011		
				7 14	0.002 0.041	0.002 0.040		
				7 14	0.002 0.041	0.002 0.040		
				7 14	0.002 0.041	0.002 0.040		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験圃 場数	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
	7 g ^{EC} /樹	1		7	0.008	0.008	<0.004	<0.004
				14	0.012	0.012	<0.004	<0.004
				21	0.003	0.003		
				144	0.009	0.008	<0.004	<0.004
				151	0.003	0.003		
				159	0.004	0.004		
		1		7	0.013	0.013	<0.004	<0.004
				14	0.012	0.012	<0.004	<0.004
				21	0.007	0.006		
				144	0.005	0.005	<0.004	<0.004
				151	0.008	0.008		
				159	0.005	0.004		
いちじく (施設) (果実) 平成 7 年度	6,000 ^{EC}	1	3	7	<0.02	<0.02	0.04	0.04
				14	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
				21	<0.02	<0.02	0.02	0.02
		1		7	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
				14	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
				21	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
ぎんなん (露地) (種実) 平成 15 年度	5 g ^{EC} /樹 樹幹散布	2	3	60	<0.01	<0.01		
				74	<0.01	<0.01		
				88	<0.01	<0.01		
くり (露地) (可食部) 昭和 47 年度	1% ^{EC} 樹幹塗布	1	1	139	<0.002	<0.002	<0.004	<0.004
				153			<0.004	<0.004
くり (露地) (果実) 昭和 49 年度	1,800 ^{MG}	1	2	14	0.002	0.002	<0.001	<0.001
			4		0.006	0.006	0.001	0.001
		1	2		0.002	0.002	<0.001	<0.001
			4		<0.002	<0.002	0.001	0.001
茶 (露地)	35,000 ^{EC} 土壌処理	1	1	92			<0.005	<0.005

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	使用量 (g ai/ha)	試験 圃 場 数	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)			
					フェニトロチオン			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
(製茶) 昭和 63 年度	44,500 ^{EC} 土壌処理	1		195			<0.005	<0.005
茶 (露地) (浸出液) 昭和 63 年度	44,500 ^{EC} 土壌処理	1	1	195	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		1		92	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
茶 (露地) (あら茶) 平成 9 年度	1,430 ^{EC}	1	1	21 30	0.01 0.01	0.01 0.01	0.02 0.02	0.02 0.02
		1		21 30	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01
茶 (露地) (あら茶) 平成 19 年度	17,500 ^{EC}	2	1	90	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

注) ・試験には EC：乳剤、MC：マイクロカプセル剤、MG：微粒剤、WP：水和剤を用いた。
・全てのデータが定量限界未満の場合は定量限界値の平均に<を付して記載した。
・農薬の使用回数及び使用時期 (PHI) が、登録又は申請された使用方法から逸脱している場合は、回数又は PHI に a を付した。

<別紙４：推定摂取量>

作物名等	残留値 (mg/kg)	国民平均 (体重：53.3 kg)		小児(1～6歳) (体重：15.8 kg)		妊婦 (体重：55.6 kg)		高齢者 (65歳以上) (体重：54.2 kg)	
		ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)
米	0.087	185.1	16.10	97.7	8.50	139.7	12.15	188.8	16.43
小麦	0.13	116.8	15.18	82.3	10.70	123.4	16.04	83.4	10.84
大麦	0.43	5.9	2.54	0.1	0.04	0.3	0.13	3.6	1.55
とうもろこし	0.045	2.5	0.11	4.3	0.19	2.7	0.12	0.8	0.04
だいず	0.005	56.1	0.28	33.7	0.17	45.5	0.23	58.8	0.29
あずき	0.069	1.4	0.10	0.5	0.03	0.1	0.01	2.7	0.19
そらまめ	0.03	0.2	0.01	0.1	0.00	0.1	0.00	0.4	0.01
その他の豆類	0.04	0.1	0.00	0.1	0.00	0.1	0.00	0.1	0.00
ばれいしょ	0.004	36.6	0.15	21.3	0.09	39.8	0.16	27	0.11
さとうきび	0.011	13.4	0.15	11.3	0.12	10.3	0.11	12.1	0.13
ごぼう	0.007	4.5	0.03	1.6	0.01	2.4	0.02	5.2	0.04
トマト	0.03	24.3	0.73	16.9	0.51	24.5	0.74	18.9	0.57
なす	0.062	4	0.25	0.9	0.06	3.3	0.20	5.7	0.35
きゅうり	0.059	16.3	0.96	8.2	0.48	10.1	0.60	16.6	0.98
かぼちゃ	0.033	9.4	0.31	5.8	0.19	6.9	0.23	11.5	0.38
しろうり	0.02	0.3	0.01	0.1	0.00	0.1	0.00	0.8	0.02
ほうれんそう	0.02	18.7	0.37	10.1	0.20	17.4	0.35	21.7	0.43
さやえんどう	0.07	0.6	0.04	0.2	0.01	0.7	0.05	0.6	0.04
さやいんげん	0.01	1.9	0.02	1.2	0.01	1.8	0.02	1.8	0.02
えだまめ	0.19	0.1	0.02	0.1	0.02	0.1	0.02	0.1	0.02
なつみかん	0.88	0.1	0.09	0.1	0.09	0.1	0.09	0.1	0.09
その他のかんきつ	0.5	0.4	0.20	0.1	0.05	0.1	0.05	0.6	0.30
りんご	0.13	35.3	4.59	36.2	4.71	30	3.90	35.6	4.63
日本なし	0.152	5.1	0.78	4.4	0.67	5.3	0.81	5.1	0.78
もも	0.08	0.5	0.04	0.7	0.06	4	0.32	0.1	0.01
うめ	0.046	1.1	0.05	0.3	0.01	1.4	0.06	1.6	0.07
おうとう	0.02	0.1	0.00	0.1	0.00	0.1	0.00	0.1	0.00
いちご	0.03	0.3	0.01	0.4	0.01	0.1	0.00	0.1	0.00

ぶどう	0.07	5.8	0.41	4.4	0.31	1.6	0.11	3.8	0.27
かき	0.06	31.4	1.88	8	0.48	21.5	1.29	49.6	2.98
パイナップル	0.005	0.8	0.00	1	0.01	0.1	0.00	0.5	0.00
その他の果実	0.04	3.9	0.16	5.9	0.24	1.4	0.06	1.7	0.07
くり	0.006	0.7	0.00	1.3	0.01	0.1	0.00	0.8	0.00
茶	0.02	3	0.06	1.4	0.03	3.5	0.07	4.3	0.09
その他のスパイス	19.2	0.1	0.94	0.1	0.94	0.1	0.94	0.1	0.94
魚介類	0.24	94.1	22.6	42.8	10.3	94.1	22.6	94.1	22.6
合計			70.1		40.2		62.4		66.2

- ・ 定量限界未満であった作物は、摂取量の計算に含めていない。
- ・ 「ff」：平成10～12年の国民栄養調査（参照75～77）の結果に基づく食品摂取量（g/人/日）
- ・ 妊婦及び高齢者の魚介類のffは国民平均のffを用いた。
- ・ 「摂取量」：残留値から求めたフェニトロチオンの推定摂取量（μg/人/日）
- ・ その他の豆類は未成熟そらまめの値、その他のかんきつはいよかんの値、その他の果実はいちじくの値、その他のスパイスはみかんの皮の値を使用。

